

# Duet

滋賀の文化情報誌  
デュエット

2013 秋 vol.111

座談会

## 近江鉄道の思い出

新撰 淡海木間撰 55

近江鉄道高宮—八日市間路線地図

INFORMATION STATION

催し案内 2013 秋

MYBOOK 自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS

サンライズ出版の新刊案内

単線自動化(ARC)完成記念乗車券  
72/6

→単線自動化によってなくなった腕木式信号機(赤い信号板の上  
下で進行・停止の合図をしていた)。昭和47年、日野駅構内



近江鉄道

豊郷 ← 愛知川 → 五箇荘

矢印の1駅ゆき 20円 愛知川駅発行

車両形式シリーズ

第4集

モハ9形



近江鉄道

尼子 ← 豊郷 → 愛知川

矢印の1駅ゆき 20円 豊郷駅発行  
昭和48年8月15日迄有効

昭和48年、彦根駅構内

車両形式シリーズ 第8集 モハ131形



近江鉄道

賀多 ← 高宮 → 彦根口

矢印の1駅ゆき 50円 高宮駅発行  
昭和50年6月10日迄有効

昭和47年、愛知川—五箇荘間の愛知川鉄橋



車両形式シリーズ  
第5集 モユニ10形

↓「テ」のマークがついた郵便車。昭和48年、八日市駅構内

近江鉄道

尼子 ← 豊郷 → 愛知川

矢印の1駅ゆき 20円 豊郷駅発行  
昭和49年4月15日迄有効



旧愛知川駅と桜の木  
(昭和40年頃、愛荘町立愛知川図書館蔵)



←改築直前の旧愛知川駅  
(須田誠一氏提供)



座談会

## 近江鉄道の思い出

10月26日から愛荘町立歴史文化博物館で、近江鉄道創業期の資料を集めた秋季特別展「湖東の鉄路—近江鉄道の誕生と愛知川駅—」が始まり、関連の催しも行われます(10ページ参照)。

子供の頃からの近江鉄道利用者、長年運転士もお務めになった近江鉄道OBの皆さんにお集まりいただき、愛知川駅を中心に、近江鉄道の思い出を語っていただきました。

## 出席者の自己紹介



司会進行  
**門脇正人さん**  
1943年生まれ（70歳）  
〔愛荘町立歴史文化博物館顧問〕

（門脇）司会を務めさせていただきます。私も、愛知川駅から近い愛荘町中宿（なかしゆく）というところに住んでおりますので、自身の思い出もお話しさせていただきます。まずは順に自己紹介をお願いできますでしょうか。



**廣瀬喜文さん**  
1940年生まれ（73歳）  
〔近江鉄道 OB〕

廣瀬 住まいは東近江市北花沢町、以前の湖東町です。当初はバス畑を歩んでおりましたが、途中から鉄道へ移りました。最近になりますが、駅舎の改築にともなう、各市町の役場との交渉を担当いたしました。どこもご理解をいただき、きれいになった駅舎をお客さまに気持ちよくご利用いただけるようになり、大変感謝しております。



**水野秀雄さん**  
1942年生まれ（71歳）  
〔近江鉄道 OB〕

水野 私は近江鉄道に入社して以来、46年弱、鉄道一筋でした。最初は電車庫、わず

かですが駅員を担当し、20歳から20年以上運転士を務めました。その後、乗務員の管理をする事務所に移り、定年後も嘱託として同じ職場で仕事をさせていただきました。



**野々村芙美子さん**  
1935年生まれ（78歳）  
〔近江鉄道利用者〕

野々村 私は、愛荘町南野々目（みなみのめ）の4代目の家に18歳で嫁いで、1、2年前までずっと機織りの仕事をしていました。生まれは愛知川駅近くの愛荘町市（いち）で、いままたその市に暮らしております。



**西澤基治さん**  
1944年生まれ（69歳）  
〔愛荘町愛知川観光協会会長〕

昔の愛知川の駅、昭和30年あたりの駅について覚えておられることは何ですか。

### にぎわっていた駅前

野々村 駅の入口はこつい戸で、ゴロゴロと音がするのと違いましたか。

西澤 大きなサクラの木がありましたね。

野々村 そうそう。出たところにあつた。

西澤 そこでどれだけ遊んだかわからない。駅のプラットホームで遊んだ記憶もいっぱいある。昔はけっこう高いところにあつたように思うんです。いまは道がどんどん高くなつて、駅もそう変わらない高さを感じ

西澤 私が小学校1年の頃、父が愛知川前で新聞販売を始めて、現在も駅前で生活しています。祖父が土地の関係で近江鉄道の創業時に関わっていたこともあり、愛知川駅は小さいときから遊び場でした。高校・大学の通学にも使いました。めぐりめぐって観光協会の副会長（当時）になり、愛知川駅を建て替えるさいにも関わらせていただき、いま愛知川駅コミュニティハウスの指定管理の責任者をやらせてもらっています。



**和田武志さん**  
1968年生まれ（45歳）  
〔近江鉄道総合企画部次長〕

和田 現在は総合企画部におりますが、もともと近江鉄道の現業ですと仕事をしておりました。八日市の駅での切符切りから始まりまして、その後運転士になり、それから電車のダイヤをつくる仕事、運転管理全体の責任者となり、今年の7月からは、鉄道から離れて、本社の経理部門の担当になっております。

ですが、昔は雪が降ったらソリを作つて丸通（現、日本通運）があつたところからビュッと下まで滑つて降りられました。子供が自転車に乗る練習も、駅の改札口のところから坂を下に向けてやっていました。舗装を重ねていったからか、いまは駅周辺の道が高くなった。うちの家でも40cmぐらい上がったようだというのが、記憶にある風景との違いで第一にきます。

野々村 おっしゃったように駅の前に丸通がありましたね。私の嫁ぎ先の祖母（明治

13年生まれ」の兄が役場勤めだったんです  
が、その人が中宿の宮川さんと沖の森さん  
と組んで、鉄道が愛知川につくように骨を  
折ったと聞いたことがあります。

西澤 駅に売店ができたのはだいぶ後やね。  
駅前に、青い自転車車がずらっと並んでいて。  
**あそこら辺に自転車屋がいくつあった  
て、角がたばこ屋さんやね。**

西澤 うどん屋さんがあったし、うちの前  
にビリヤード場もあったんです。ちょうど

## 子供が「キンテツ」に乗るとき

水野 昔は近江鉄道なんて言いませんでした。  
た。キンテツ（近鉄）、キンテツ。

西澤 そう。キンテツ言うてました。だか  
ら、子供の時は向こうの近鉄（近畿日本  
鉄道）と同じかと思っていました。

**私も小さいときからキンテツです。今  
の若い人は「ガチャコン」ともいうけど。**

野々村 私もずっとキンテツでした。

**車両はいろいろなものがありました  
が、皆さんは何色が頭に浮かびますか。**

野々村 そうですね。黄色とか緑。

和田 もともととは緑ですからね。近江鉄道  
の車両は。昔は、西武鉄道が赤、同じグルー  
プの伊豆箱根鉄道が青、近江が緑、その3  
色がライオンズカラーだといっていました。  
この3色だったのは、偶然なんです。

水野 私も運転していたのは、緑系統が多



↑昭和30年代半ばに走っていた車  
両モハ134（個人蔵）



↑今年6月にデビューした新車両  
900形（近江鉄道提供）

いまの線路の横のコインランドリーがある  
ところ。そのあと、近江タクシー乗り場にな  
った時期があつて。駅近くは、医療や米  
屋、製材所、近江刺繍とか、次々できていっ  
たので「開墾地」と言われたそうです。  
野々村 パチンコ屋もありましたやん。い  
ま歯医者さんがある場所の向こうの角っこ。  
西澤 映画館もあつたし。あそこらは愛知  
川の発達したところです。いまは一番さび  
れとるけども。

かつたですね。

和田 6月に紺色の新しい電車がデビュー  
しました。今後はこの色をメインにと考え  
ています。

**皆さんが子どもの頃、そのキンテツに  
乗った記憶はどんなものがありますか。**

廣瀬 私は旧湖東町で愛知川駅までは距離  
があつたので、修学旅行とかで乗ったよう  
な気はしますが、家で電車に乗せてもらう  
ということはなかったです。乗りたくても  
当時、経済的にそんな余裕はなかった。

水野 私は一番近い駅が豊郷でしたが、小  
さいときはまずないですね。彦根のえびす  
講でも、父親に連れられて自転車ですわ。  
当時は皆、高校への通学も自転車でしたし。  
**私は母親が彦根でしたので、彦根に行  
くといったらえびす講でした。**

西澤 子供が連れていってもらえるといっ  
たら、彦根のえびす講か、八日市に映画を

見に行くか。

野々村 映画により行きましたよね。昔は  
電車に映画の切符も一緒についていました。

和田 もともと八日市の映画館のフィルム  
の輸送を近江鉄道でやっていました。そ  
の関係で割引券を会社がもらっていたので、  
つけて販売していたということですね。い  
までも、夏休みの一部子供向け映画などは  
割引券付きで販売しています。

西澤 映画以外でも、昔は年末になると、  
お多賀さん（多賀大社）への初詣用の切符  
を売りに来はるんですよ。

廣瀬 社員みんな、割り当てがありますん  
で。まあ、余ったから返したりしましたけ  
どね。なじみがないと売れないんです。

野々村 初詣の列車に乗るとね、混んでい  
て下に足がつかないんです。ぎゅうぎゅう  
で倒れるのも倒れへんという感じで。

西澤 うちが新聞屋という仕事柄、初詣に  
は行けへんかったけども、あの当時は臨時  
列車が出ていましたよね。

廣瀬 年越し参りということだね。最終便  
が、確か単発が元日の夜の1時ぐらいやつ  
たかな。近江鉄道の社員は大晦日から3日  
までの4日間は休みなしでした。正月を家  
で過ごしたのは退職する5、6年前ぐらい  
から。それまでは、バスにいたときも、駐  
車場の応援とかに出ていましたので。でも、  
たくさん来ていただけるんで、なんか疲れ  
るというよりも楽しいというか、やりがい  
を感じていましたね。



↑多賀駅への初詣切符  
（昭和31年、個人蔵）



↑住友セメント多賀採石場で採掘された石灰岩を、同社の彦根工場へ輸送する石灰石専用列車。昭和39年から昭和50年代まで運転。キリンビール滋賀工場のためにビール輸送専用列車も運転されていた（個人蔵）

## 乗客数は昭和42年がピーク

**水野** 私が会社に入ったのが昭和34年で、36年から彦根の営業所に勤務するようになって、それから昭和42年まで電車通勤だったんですが、乗客がだんだん増えて、愛知川の駅から乗っても、人、人、人でしたね。記録を調べてみると、ちょうど昭和42年が年間の乗客数のピークで1126万人。それからだんだん減っています。

**西澤** 私が通学に乗っていた頃も座れないほどの人でした。

**廣瀬** 私の場合、愛知川の駅まで自転車です。当時、いつも帰りは夜の8時、9時で、バスがなくなってしまうから、家から愛知川駅までの2里、8キロは自転車で行っていました。そして、昭和40年代から車が多くなるでしょう。

## たぶん、その昭和42年のピーク以降に

**マイカーが増えていくんでしょうね。**

**西澤** 昔は貨物も近江鉄道にたくさんありましたね。愛知川駅に引き込み線が両側にあって。

**いまはもう貨物は少ないんですか。**

**和田** もう貨物はやっておりません。

**水野** 創業当初から郵便車はあって。

**西澤** 一番後ろに連結されてたんですね。

**水野** 各駅へ降ろして、愛知川駅なら日通さんがあって。

**野々村** 石炭も運んではったと思いますよ。

**西澤** そうそう。肥料とかも。愛知川駅からは米がどんどん運ばれていきました。右側の方に外材をあつかう伊藤製材が入ってあって、仲仕<sup>なかし</sup>さんが運んではった。

**西澤** 愛知川駅からは近江バスも出ている

## 農家を続けるにはちょうどよかった勤務時間

**水野**さんは電車の運転士としてはどんなことを覚えておられますか。

**水野** 私は運転士になったのが、昭和38年。その当時辞令には「運転士兼車掌」とあったように思います。

最初は車掌の仕事が多くて、1両目と2両目の中間ぐらいで笛を吹いて、手動のドアを閉めながら飛び乗る。そんなことをしていたのが、懐かしいですね。夏だと、車掌の私が閉めたドアを、暑いからお客さんがまた開けてしまうんです。エアコンなんか当時入っていませんので。

**運転がしたくて入社なさったのでは。**

**水野** いいえ、そういうわけじゃなかった。私はまさか運転士になるとは思っていませんでした。職場の上司に「お前が一番若いから（試験を受けに）行け行け」と勧められて。一度落ちまして、西武鉄道の養成所

でしょう。小学生の頃、昔はあまり家で新聞を取ってはらへんのので、バスの乗客に売りに行かれました。運転士さんは何にも言われへんかったし、しばらく止まっていた間にけっこう売れるようになって。

**水泳なんかも柳川の水泳場へみんなバスに乗って行きましたよね。**

**水野** バスは完全にあの当時は、鉄道の補完輸送です。鉄道に乗っていたくためにあった。

**廣瀬** ところが、私らでも車を持つようになってからは、もう彦根までなら電車を使いませんでしたもんね。

**一同** あはは（笑）。

**廣瀬** 八日市に行くにしても、彦根に行くにしても、愛知川駅に駐車場なんてないから車で直接、そうやってしまいました。

の6期生に入らせてもらいました。西武鉄道から40名余り、近江鉄道から7名でした。

**でも、人気職種ですよ、運転士さんは。**

**和田** 私の世代だとそうなんです。私も運転士になりたくて入社しましたし。

**水野** 私たちの当時は、家の田んぼもやりながら続けられる勤め先の一つと言いますか。そんなことで始まりましたが、20年以上、貨物にも乗ったり、車相手の踏切事故とかも何回か経験しました。

**近江鉄道の社員には、兼業農家が多かったんですか。**

**廣瀬** そうです。

**水野** いまは農業従事者が集約化されつつありますけど、前はみんなやっていましたから。2日泊まって、明るる日家に帰れる勤務時間なので、仕事に選ぶという人もかなりいたと思います。

当時の勤務は、駅員の泊まり勤務になりますと2日泊まる、丸48時間勤務なんです。その当時ですと、午後11時から午前5時ぐらいが仮眠する時間になっていました。そして、1日非番で帰って、次の日にまた48時間。そして非番と1日休み。週に3日しか帰れない。その後、乗務員になって1日泊まりの勤務になり、「ああ、乗務員って楽やな」と思いました。

和田 いまま原則は24時間勤務なんです。

## 水害と雪害など

——他に乗客としての思い出はありませんか。  
西澤 私が大変やったことは八日市高校に通っていた昭和30年代、愛知川が決壊して、下校の時間には電車が止まってしまっ



↑水につかった近江鉄道の線路(昭和34年8月、現愛荘町川久保、愛荘町立愛知川図書館蔵)

歩いて家まで帰ったことがあります。御幸橋を渡つてようやく家に帰ったら、家は床上浸水ですわ。でも、駅はホームが高かったので無事でした。

——それでも、JR(国鉄)と比べたら、近江鉄道は止まらないですね。

西澤 昔は本当にめったに止まらなかった。逆に最近はいく止まりますよね。

和田 昔は係員が現場に行つて、このぐらいいやったら大丈夫と判断することが結構あったんです。いまは危険水位のラインが決まっています、それを超えたら止めます。

西澤 愛知川上流の永源寺ダムで放流が始まったら、もう止まりますもんね。

和田 まだ水位に達しなくても、明らかに

朝8時に出勤したら次の日の朝8時まで、鉄道会社のほとんどはそうです。  
西澤 私なんかは、夜、愛知川駅で駅員さんが寝てはるとよく遊びに行きました。  
水野 私らも乗務員で「愛知川止め」があった当時は、あそこで寝ました。米原、彦根でも寝ましたし、それから八日市、貴生川、日野でもありました。八幡もあつたかな。  
廣瀬 八幡もあつたね。



↑(上) 台風で冠水した近江鉄道彦根駅付近  
(下) 国鉄彦根駅西側  
(昭和34年8月、野村しづかず氏撮影)

これから放流されるとわかったら、先に止めます。風速計が25m以上の風を記録したら八日市にある司令所の赤いランプがつく、10分間のうちに2回以上ランプがついたら止める決まりです。目分量とは違いますので、昔と比べると止まる回数は確かに多くなっていると思います。

——私が彦根東高校に勤めていた頃、台風とか来ると、生徒たちがよく言っていたんです。「国鉄で通学してる生徒は止まってしまうのに、近江鉄道はなかなか止まらないから私らは来んならん」と。私は、近江鉄道は強いんだな、と思っていました。

廣瀬 よくJR(国鉄)が止まったとき、米原から八幡まで振替輸送をしましたね。

和田 1カ月ほど前にも、野洲の駅の信号故障が何かで、2000人ほどのお客さんを振り替えて運びましたね。

西澤 えらい収入ですね(笑)。

和田 でも、正規の乗車賃の半額分だけがJRさんから支払われる取り決めなんです。お客さまからはいたがずに。

——雪で大変だったご経験は。

和田 私が運転士だった頃は、愛知川あたりから新幹線と並行しているところで、それほどでもない雪でも新幹線は50kmの低速運転をするので、シャーツとそれを追い越すと気持ちよかったですね(笑)。

水野 昔は、もっと雪も積りましたから米原まで行くとさらに雪が多くて、深い。一番電車だと線路も何にも見えない、大丈夫なんかなという感覚で走っていました。真っ白の中。雪をだあとと前で押してるうちに、止まってしまうこともあったし。

水野 夜中に除雪車を通すんですが。

廣瀬 それでも心配でした。泊まっても寝られないんです。多かったときはいろいろな事故があったもんな。昭和56年



↑昭和初期、国鉄の客車9両を引いて多賀駅に乗り入れた近江鉄道の蒸気機関車。修学旅行をはじめとする団体用の列車が戦前から運行されていた（近江鉄道提供）

（1981）は多かったですね。踏切の事故とか。

**西澤** 新聞が来ませんでした。道路も全然動きませんでしたし。

**廣瀬** あれはひどかったです。

**水野** 踏切の雪が凍ってしまっただけのことでもできず、引き返して脱線したことがありました。踏切が力チコチで、レールと同じような状態のところにあがってしまっただけで。それから、一番電車が雪の重みで倒れてきた竹やぶに前をふさがれて、電車を止めておいて、竹をゆすって雪を落としていったことがあります。

**廣瀬** 誰も助けに来てくれなくてすしね。

**水野** 私はワンマンになってからはほとんど乗っていないですが、いま乗っている者は一人で苦労があると思います。

**和田** 何もかも一人でやらないといけませんから。他社さんでの事故の影響もあって

規則がどんどん厳しくなりましたし。

**廣瀬** 気持ちに余裕がないですよ。

**和田** いまの運転士の場合、朝出勤してきたらアルコールのチェックがあり、前の日に飲んだお酒がちよつとでも残っていると、その日は強制的に休みになりますから。

**廣瀬** ふりかえる人員はいるんですか。

**和田** いまません。だから、その日終わった人に残ってもらうしかありません。それでも、若い世代に運転士の希望者は多いですね。いま、だいぶ入れ代わりが進んでいます。運転士の平均年齢が28・5歳ぐらいです。

**高齡化が進んだかと思ったら、若いんですね。**

**和田** ベテランさんが定年を迎えられて、その後の世代は空白期間で、若い子がトツ

### お伊勢さんとお多賀さんを結ぶかつての計画

——愛知川辺りの小学校で伊勢への修学旅行という、今だと大型バスで行くのでしょうが、昔は愛知川駅から乗って、貴生川駅で国鉄の草津線に乗り換え、伊勢方面へだったと思います。

**西澤** そう、私らのときも近江鉄道で貴生川まで乗りました。その頃は、近江鉄道が伊勢までつながるという話があったんです。

**和田** 昔はそういう構想がありました。

**西澤** 湖西の江若鉄道が小浜（福井県）までつながるといふ計画を立てていたのと同じで、祖父から近江鉄道は伊勢まで行くんやという話を聞いていました。

**廣瀬** もともとは貴生川ではなく、深川（甲賀市甲南町）へつなぐ計画だったんです。そして、将来は伊賀上野まで結ぶ。つまり、お多賀さんとお伊勢さんを結ぶ予定でした。

——全国的にも、鉄道は神社詣でのルートに設けられたものが多いそうですね。

**和田** 昭和2年（1927）には貴生川―伊

づに立ってやっていかないといかんような状態になっています。

**廣瀬** 20年以上運転しているベテランはいないわけだ。

**和田** そうですね。いま、今年4月に、32歳で運転士の指導員にまわっていた者を駅員の仕事に移しましたので。最年長が、途中入社で36歳かな。

**廣瀬** 社員全体では、鉄道部で350人ほどいたのが一番ピークで、現在は100人程度ですか。

**和田** 平成21年に86人まで減って、そこから少し増えています105人です。

**廣瀬** 3分の1以下ですか。機械化とか、ワンマンカーも入って省力化された面はありますが、個人の負担が増えていますね。

賀上野間の免許を申請して、用地買収まで進んだそうなんです。結局未着工のまま戦後になって、買収しておいた農地はすべて耕作者に返却されてしまったんですね。

**廣瀬** 宇治川電気（現関西電力）の経営になつてからですね。

**和田** そうです。大正15年（1926）に宇治電の経営になってすぐです。

**西澤** 信楽を抜けて伊賀鉄道の伊賀上野駅（三重県）につないで宇治（京都府）までという計画もありましたね。

**和田** ありました。でも、信楽から先の山をぶち抜くのはたいへんな工事になるので、なかなか難しいでしょうね。

**西澤** 昔は、彦根から近江八幡駅行きの電車も多かったですね。いま、八幡へ行きたいと思うときに不便なんやわ。八日市駅での乗り換え時間が2、3分しかない。そうすると、もうよう乗らへん。

**野々村** 八日市は階段のロスが多いから。

**西澤** そうそう。その代わりに貴生川行きがすごく多くなったね。いまでも八日市―八幡間はドル箱だと思うんやけど。

**和田** じつは、米原から貴生川まで、通しで1本の電車を走らせるという前提で補助金をいただいていることが大きな理由です。昔は八日市から貴生川までの間は小さなディーゼル車の車両が走っていたので、電車は米原から八幡まで。八日市から貴生川まではディーゼルでと、使い分けられていたんですよ。

## 鉄道というのはお金もつけをするための事業ではない

―本数はどんどん減る一方ですか。

**和田** はい、一時ちよっと増やしたんですが、今年の4月からまた減らしています。すると利用していただきにくいという悪循環になるんですが。

**西澤** そうですよ。半時間に必ず1本あるとわかっていたら使えるけど、それが1時間に1本となると使いにくい。

―近江鉄道は鉄道部門の営業利益だけでは維持できていないでしょう。

**和田** 鉄道単体ですごく赤字です。

―赤字分は路線のある自治体から補助があるんですか。

**和田** いえ、それは一切ないです。バス路線には自治体からの補助があるんですが、鉄道にはそういう制度がないんですよ。ですから、他の不動産事業やレジャー事業で補っています。一番大きいのは不動産。土地や賃貸物件ですね。最近では、新名神高速道路の土山サービスエリアを運営するようになって、この収益がかなり大きいんです。―それでも赤字部門である鉄道をやめるわけにはいかない。

**和田** 鉄道というのは、お金もうけをするための事業ではないですよ。地域の皆さま

**野々村** 私は日曜日にフリー切符を買って、自転車を乗せてお多賀さんに行ったりしています。お多賀さんまで歩くのと遠いから。

―「サイクルトレイン」はよろしいね。ちよっとしたお出掛けに。どの辺りまで自転車で行かれましたか。

**野々村** お多賀さん以外は日野。日野は降りて、町中まで遠いでしょう。自転車があると便利ですね。水口も行ってみようかなと思ってるねんけど。

―に乘っていただく公共の交通機関という性格から、採算が合わないのやめますわというわけにはいかない。

―それこそ、去年、サーベラスが西武鉄道のもうかつていない路線をやめよといって大騒ぎになりましたけども、東京近郊ですらそういう考えには、地元から強い反発が出るわけですから。まして地方の滋賀県で、それも117年の歴史を持っているローカル鉄道となれば残してほしいという声はきつとあがつてくると思います。

―明治時代からある鉄道で1回も名前を変えていないのは、東武鉄道さんと伊予鉄道さんと私のところ3社だけなんです。JRだってね、戻れば国鉄ですし、もっと前は省線ですし、もっと戻ったら院鉄やったんでしょうし。

―それはすごいことですよね。その名前を変えずに継続していただきたいものです。最後に、新しくなった愛知川駅について、改築されたところは、西澤さんは観光協会の副会長ですか。

**西澤** はい。当時は副会長で、建物の管理責任者になりました。改札の部分は近江鉄道が、残りは愛知川町が負担するというこ

## サイクルトレイン

近江鉄道で実施している、電車内へ自転車の持ち込みができる仕組みです。

持込料：無料（運賃のみ）

持込可能区間：近江鉄道本線（米原～貴生川間）

および多賀線（高宮～多賀大社前間）。ただし、彦根・水口石橋・八日市線の各駅は除く。

利用日：毎日（年末年始を除く）

利用時間：平日は9時から16時まで。

土・日・祝日は終日

持込場所：2両編成の場合は後部車両

1両の場合は車両後部

5人以上で乗車の場合は事前にご連絡ください。

ご連絡・お問合せ先 近江鉄道株鉄道部運輸課

TEL 0749 (22) 3303



とで、いろいろなアイデアを出しあつて、展示ギャラリーとびんてまりなど愛知川の物を販売するスペースを設けることが決まり、観光協会が管理することになりました。完成したギャラリーでは、一番最初に愛知高校美術部の作品を展示しました。その後も、けっこうギャラリーの展示はテレビや新聞の取材があるんですね。

**和田** 今年になってから多いですね、愛知川駅についての放送が。

**西澤** 放送があるのと、かなり人がいらっしやって、びんてまりの売り上げもあるんです。わざわざ東京からというお客さんもおられます。そこから旧中山道の再生にもつながれたらなと考えるたりもしています。

―本日は懐かしいお話をありがとうございました。（2013.8.7）

# 近江鉄道高宮―八日市間路線地図

愛荘町立歴史文化博物館  
三井義勝

明治27年（1894）7月26日、近江鉄道株式会社は  
仮免状が下付されたのと同時に路線用地と停車場用地買  
入のための仮測量に着手したといわれている。

高宮―八日市間の路線については、明治26年  
（1893）11月15日付け、通信大臣宛の「近江鉄道株  
式会社創立願」に「別紙図面ニ記スル如ク官線彦根停車

場ヲ起点トナシ高宮、愛知、八日市、桜川、日野水口ノ各地ヲ  
経テ」（傍点加筆）とあるように、愛知川（愛知川村）  
を経由することが明記されていた。

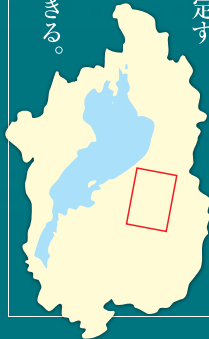
近江鉄道創業期に取締役として奔走した四代小林  
吟右衛門の鉄道関係史料のなかに、高宮から八日市に至  
る路線と停車場を検討したとみられる地図がある（近江  
鉄道高宮―八日市間路線地図）。東方位を天とする画面  
には、縦に3本の河川（北から大上川・宇曾川・愛知川）  
と横に2本の街道（東から中山道・朝鮮人街道）を強調  
して表しているほか、中山道以東の愛知郡とその周辺の  
村々や大字の位置などが描かれている。また、図中には  
中山道の東側を並行する路線と5カ所の停車場が書き込  
まれており、路線は愛知川村を経由する計画路線と同村  
を経由しない2本が引かれている。

愛知川村を経由しない路線は、「高宮」と記された停  
車場よりさらに東側に記された楕円形の印を起点とする。  
これは高宮停車場の候補地を意味するのだろうか。この  
印から南の西甲良村（甲良町）内や豊郷村（豊郷町）大  
字雨降野を通過、さらに秦川村・八木荘村・豊国村といっ  
た現在の愛荘町東部の村々を横断し、愛知川を渡って旭  
村（東近江市）大字奥に至る。停車場の印は大字雨降野  
と秦川村大字深草との間、そして豊国村大字東田堂と同  
村大字畑間の間の2カ所に記されている。

この路線地図には作成年やタイトルが記されていない  
ため詳細については不明である。しかし、路線用地の測  
量や買上時に作成されたと仮定す  
ると、2本の路線が引かれた  
背景として中山道近辺の用  
地買上が容易に進まなかった  
事情などを推測することができる。



「近江鉄道高宮―八日市間路線地図」（部分）（財近江商人郷土館蔵）



## 人々の救い 天神信仰 —菅原伝授手習鑑より—

開催中～ 11月10日(日)  
長浜市曳山博物館

丸本歌舞伎三名作の一つで、菅原道真失脚事件を題材に描かれた「菅原伝授手習鑑」を模型や浄瑠璃本から紹介。道真が庶民の神、学問の神として人々に受容されたようすを、天神講やおコナイ行事の資料から探ります。  
休館日：会期中無休  
入館料：大人600円、小中学生300円



天神坐像  
(福井県立歴史博物館蔵)

### ■特別展記念講演会

「ここが面白い!! 菅原伝授手習鑑」

10月27日(日) 午後7時～8時30分

菅丞相の息子菅秀才の身替りのために、我が子を犠牲にする松王丸と千代夫婦の悲劇で有名な寺小屋を中心に、本作の見所やエピソードなど画像を交え紹介します。  
※講演会の前(午後6時40分～)に展示中の大垣祭菅原軸の10分の1模型のカラクリの実演を行います。

講師：山田和人氏(同志社大学文学部教授)

会場：長浜市曳山博物館 伝承スタジオ

参加費：無料

お問い合わせ先：TEL 0749 (65) 3300

## 開館 25 周年記念展 銅鐸 —日本最大銅鐸の里帰り—

開催中～ 11月24日(日)

銅鐸博物館(野州市歴史民俗博物館)

野州市で発見された24個の銅鐸の中には、日本最大の銅鐸があり、日本の歴史上、弥生時代を代表する出土品として注目されています。

今回、日本最大の銅鐸が明治14年(1881)発見以来、初めて里帰ります。

## 湖東の鉄路

—近江鉄道の誕生と愛知川駅—

10月26日(土)～ 12月15日(日)  
愛荘町立歴史文化博物館



近江鉄道旧愛知川駅舎鬼瓦  
(愛荘町立歴史文化博物館蔵)

近江鉄道創業期に取締役として奔走した愛知郡出身の豪商、小林吟右衛門の鉄道関係史料のほか、近江鉄道が所有する「近江鐵道コレクション」や平成11年に解体された旧愛知川駅舎の資料を展示します。

休館日：月・火曜日(11月は毎日開館)

入館料：大人300円、小中学生150円

無料期間：「関西文化の日」11月22日(金)～24日(日)



駅名キーホルダー「えちがわ」を館内で販売  
1個 300円(税込) 限定 100個

### ■ギャラリートーク

「近江商人と近江鉄道」

11月17日(日) 午後1時30分～3時

講師：末永國紀氏(同志社大学名誉教授)

会場：愛荘町立歴史文化博物館 企画展示室

定員：50名 参加費：無料(要入館券)

■ワークショップ「ガチャコン列車をつくらう—ペーパークラフトによる模型づくり—」

12月1日(日) 午後1時30分～

会場：愛荘町立愛知川びんてまりの館

定員：30名(申込先：愛荘町立歴史文化博物館)

■サテライト展示「近江鉄道の駅舎と沿線—福山聖子作品展—」

12月1日(日)～平成26年1月5日(日)

会場：愛知川駅コミュニティハウス「るーぶる愛知川」ギャラリー

開館時間：午前8時～午後5時

お問い合わせ先：TEL 0749 (37) 4500

## 近江と能

—霊場・名所・物語—

開催中～ 10月22日(火)  
彦根城博物館

能には、近江を舞台とするものが多くあります。その中から、人々の信仰を集めた霊場であり、名所である寺社を舞台とした、三井寺、竹生島、白鬚を取り上げ、近江と能の関わりについて紹介します。

休館日：会期中無休

入館料：大人500円、小中学生250円

お問い合わせ先：TEL 0749 (22) 6100



紅地花唐草入菱繋文様唐織  
(桃山時代 政所八幡神社蔵)  
紅地に白や藍などで菱繋文様を織り表した、非常に華やかな能装束。桃山時代の作で、県内所在の能装束の白眉。

## 八日市鉄道と近江鉄道の名所案内

開催中～ 10月27日(日)  
観峰館

奇岩の太郎坊宮、紅葉の永源寺、桜の延命公園など、沿線には名勝・景勝地がいっぱい。近江鉄道・八日市鉄道が戦前に発行した名所案内パンフレット約50点を展示します。

入館料：一般500円

高大生300円

中学生以下無料

※HP割引あり

www.kampokan.com

休館日：月曜(祝日の場合は翌日)

お問い合わせ先：

TEL 0748 (48) 4141



八日市鉄道パンフ(個人蔵)



## 海と手織と竹箴と —人の道78年の思い—

今里哲久 著

A5判並製本 総102頁 非売品

問合先 野洲市永原1511-16 (著者)

京都大学での海洋物理学の教育と研究、定年後の愛知県立大学時代にのめり込み、家族で作品展を催すまでになった手織、そして機に欠くことのできない竹箴の製作……それぞれの探求の日々を振り返る。(2013. 6.10刊)



## 高宮史あれこれ —西田稔遺稿集—

西田 稔 著

B5判並製本 総110頁 非売品

問合先 彦根市高宮町1189 (西田桂子)

2005年に亡くなった郷土史家の遺稿集。高宮橋の変遷、明治天皇の高宮村での宿泊、明治初期に流行したコレラへの高宮村の対応など論考6篇を収録。(2013. 8.28刊)



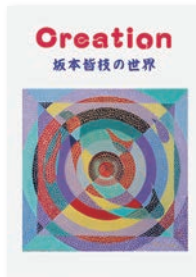
## 小津神社志略

木村隆男 著

A5判並製本 総41頁 頒価500円

問合先 守山市杉江町591 (著者)

日本武尊の孫にあたる小津君の足跡、国の無形民俗文化財に選択されている長刀振りの起源とさらに華やかだった明治時代の祭礼行列のようすなど、守山市内最古の由緒をもつ小津神社の歴史を探る。(2013. 4.29刊)



## Creation

—坂本皆枝の世界—

坂本皆枝・作品集 企画者有志

A4判並製本 総32頁 非売品

問合先 TEL 0749 (22) 0627 (サンライズ出版)

絵画以外にも、紙を素材に人形、オブジェなどさまざまな立体作品を創造し、60代に至って国際的な評価も受けた造形作家・坂本皆枝の作品40点余りをカラーで紹介。(2013.10.1刊)



日本最大の銅鐃  
(写真提供…東京国立博物館)  
野洲市大岩山・明治14年出土 重要文化財  
高さ134・7cm 重さ45・47kg

入館料：大人200円、高大生150円、小中学生100円  
休館日：月曜(10/14・11/4は開館)・祝日の翌日(10/15・11/5)

お問い合わせ先：TEL 077 (587) 4410

## 水口岡山城

—四百年の眠りから いま目覚める—

開催中～ 11月27日(水)

甲賀市水口歴史民俗資料館

「城山」と親しみをこめて呼ばれている甲賀市立水口小学校の裏山には、かつてお城がありました。最新の調査成果を中心に豊臣秀吉の命により築城された水口岡山城を紹介します。

入館料：大人150円、小中学生80円

※水口城資料館との共通券あり

休館日：木・金曜日



大手枡形虎口石垣  
廃城後に徹底的に破壊され、一番下の段と作業員が刷毛で掃く二段目の積み石が唯一残るのみである。

■講演会「水口岡山城と城下町」

11月17日(日) 午後1時30分～4時30分

講師：松尾信裕氏 (大阪城天守閣館長)

山村亜希氏 (愛知県立大学日本文化学部准教授)

会場：甲賀市碧水ホール

お問い合わせ先：TEL 0748 (62) 7141



書店で  
発売中

## 自費出版年鑑2013

企画：日本自費出版ネットワーク

編集：サンライズ出版

A5判並製本 総174頁 定価2100円

第16回日本自費出版文化賞受賞作を紹介し、全応募作品名と全著者名などを掲載。大賞受賞者インタビュー、総評の他、巻末に第17回日本自費出版文化賞の募集要項を付す。



書店で  
発売中

## 夢のまくら

岡本光夫 著

四六判上製本 総290頁 定価1785円

滋賀文学会会長である著者によるエッセイ集。生まれ育った滋賀の文学風景や歴史、世界の芸術など、清冽な筆致で綴る。「義仲寺の風」「幻影〜大津事件〜」など32篇を収録し、著者撮影のイメージ写真もカラーで掲載。

**表紙写真** 近江鉄道発行の車両写真つき乗車券の一部（昭和47～49年）「単線自動化完成記念」に発売されて以降シリーズ化され、鉄道ファンに人気を博した（個人蔵）

**編集後記** 小社は近江鉄道鳥居本駅の向かいにあります。通勤はやはり車。けれど、大雪や彦根大花火大会を見物しに行くとき（つまり道路が麻痺するとき）の代替交通として重宝しています。佐和山トンネルを米原方向へ抜けるさいの、木立の中をつぎつぎといくかのような風景の近さも好きです。㊦



書店で  
発売中

## 第5回びわ湖検定 問題と解答

びわ湖検定実行委員会 編

A5判並製本 総80頁 定価630円

「Q：江戸時代初期に江戸日本橋で開業した八幡商人、西川甚五郎が商った品を二つあげよ」。昨年実施された第5回びわ湖検定試験1級・2級・3級の問題と解答集。公式問題解説集の参照先と解説も掲載。



書店で  
発売中

## とどろき狐

お婆の団炉裏ばなし 第5編

平居一郎 著

A5判並製本 総260頁 定価1470円

幕府軍に攻め込まれた小幡城主、吉居頼定（近江守護六角氏家臣）が、かつて助けたキツネの恩返しを受ける「とどろき狐」など、東近江地域に伝わる昔話30話を収録。



書店で  
発売中

おうみ  
淡海文庫52

## 公文書でたどる近代滋賀のあゆみ

滋賀県 県政史料室 編

B6判並製本 総190頁 定価1260円

明治9年から14年まで、滋賀県は日本海に面していた。明治11年、彦根城天守を入札で民間に払い下げる通達が出された。――全国でも稀な歴史記録の宝庫である県行政文書をもとに滋賀の近代史をわかりやすく解説。



書店で  
発売中

## 顕如・教如と一向一揆

―信長・秀吉・本願寺―

長浜市長浜城歴史博物館 編

B5判並製本 総120頁 定価1575円

真宗（一向宗）門徒が織田信長と11年にわたり戦った石山合戦の具体像とともに、湖北に伝来した顕如上人・教如上人直筆の書状や名号などから、両上人の人物像に迫る。

Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

〒522-0004 滋賀県彦根市鳥居本町655-1

サンライズ出版株式会社 Duet編集部

TEL (0749) 22-0627 FAX (0749) 23-7720  
(振替) 01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。

<http://www.sunrise-pub.co.jp/>

お申込先